

稲・大豆作情報（NO.10）

1. 水稲作況情報田の生育概況（9月3日現在）

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/15 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月16日 (平年より1日遅い)				夢しずくは、糊熟期～黄熟期、さがびよりは、出穂期～穂揃期、ヒヨクモチは穂ばらみ期となっている。
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月31日 (平年より1日遅い)				
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/27 18.1株/m ²	本 年 平 年 平年比	74.2 83.3 (89)	538 472 (114)	16.4 16.4 (0.0)	31.8 37.5	

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○今後の水管理

- ・中干しが不十分な圃場は、穂揃い後に間断灌水の断水期間を少し長めに行うことで徐々に地固めを行い、早期落水を防止する。ただし、土が白乾しないように注意し、**絶えず黒乾状態**を保つようにする。

○病虫害の発生状況

- 1) **いもち病** 現在の発生量は平年並みとなっている。病斑が多い圃場は、必ず‘穂ばらみ後期’（出穂3～5日前）を中心に防除を行う。
- 2) **トビイロウンカ** 現在の発生量は平年並みとなっている。圃場の状況に応じて防除を実施する。
- 3) **紋枯れ病** 気温が高く推移していることから、多発しやすい条件となっている。各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は、直ちに防除を行う。
- 4) **斑点米カメムシ類** 圃場周辺の雑草の発生が多い場合は、乳熟期の防除を徹底する。農薬の散布は、カメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。
※薬剤の使用にあたっては、使用時期（収穫前日数など）や回数等の農薬の登録に注意する。

3. 大豆管理

○病虫害

- ・ハスモンヨトウは、平年より**やや多**の状況である。食害により白変葉が目立つ圃場も見られるため、防除を実施していない圃場は、早急に防除を実施する。カメムシについては、今後の発生に注意し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行う。
- ・一部の圃場において、葉に大きな穴が開いた株が見受けられる（写真参照）。これは、オオタバコガによる食害の可能性が高い。防除には、プレバソン、ペガサスを用いる。
(感受性が低いノーモルト、トレボンを使用しない。)



○雑草防除

- ・ホオズキ類やヒユ類などの雑草が目立つ圃場が見受けられる。発生量が多い場合は、大豆の生育抑制、品質低下や次年度以降の発生源につながるため、抜き取りを実施する。また、アサガオ類についても繁殖力が強く、効果の高い薬も無い。現在圃場内にアサガオの侵入が無い圃場でも、圃場近辺に生えているアサガオがあれば排除する。

30年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

